



校
報

けむやま

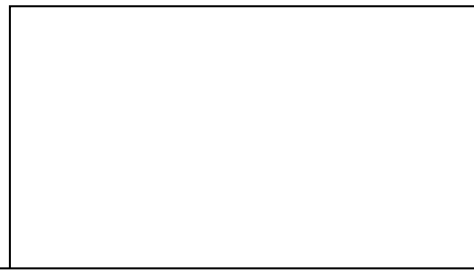
矢巾町立煙山小学校
H29.12.12(火) 第15号
紫波郡矢巾町北矢幅 1-2
Tel.697-3163

高め合おう
礼節を重んじ美しく

心を継ぐ

朝、業間、昼休み…。およそ1ヶ月の「煙山さんさ踊り」の引継ぎ取組。この取組の中で4年生が5年生から引き継いだのは、伝統を引き継ぐ使命感と妥協しない厳しさ。だからこそ、引継ぎ式の場に厳粛な空気感が生まれるのです。いつも指導してくださる遊佐さんからも「煙山小のさんさは岩手一です」とお褒めの言葉をいただきました。

煙山小学校の5年生は、甘くないです。一人一人本当にできるようになったか、試験を行います。それだけ、一人一人が引き継ぐ側としての責任を背負って根気良く教えていきます。「踊り方を教えるのではなく、どういう心構えで踊るか」、これこそが煙山さんさ踊りの素晴らしさなのです。指先、目線、バチの構え、手の振り、笛の音色、よく通るハヤシの声…。「十年偉大なり。二十年畏（おそ）るべし。三十年歴史になり。五十年神の如し。」煙山小さんさ踊りは歴史なり、です。来年の運動会に向けて、心を継ぎ、さらに磨いていってほしいと思います。



【4年生から5年生へ感謝の手紙】
一生懸命教えてくださり、ありがとうございました。

ようこそ
藤館 茂 先生
元釜石市立唐丹中学校長

復興教育

岩手県では、復興教育を学校教育の大きな柱の一つとして取り組んでいます。

「いきる」「かかわる」「そなえる」このキーワードのもと、本校では主に5年生を中心に学びを進めています。

12月5日(火)、5・6時間目に震災当時、釜石の唐丹中学校で勤務なされていた藤館茂先生においでいただき、2011.3.11の震災当時、子供たち、地域の方々、そして先生方が、どのような「思い」と「生き方」をしてきたのか、お話しいただきました。

大いなる自然の力に、助けたくても助けられなかった命への無念の思い。コッパン一個と牛乳のみの日々。多くの支援への感謝とそこで生まれた本物の思いやりの行動。思い通りにならない毎日。だからこそ成長できた、芽生えた日本人としての誇り。

「奪い合えば足らず、分け合えば残る」。

藤館先生は強く訴えます。

「辛抱と我慢が大事。熱中できるもの。夢中になれるもの。頑張れるもの。できる楽しさがあるもの。それを見つけた



とき、その時の自分が本当の自分です。優しい自分です。」と。

命の大切さ・生きていることの素晴らしさ、自分らしく生きるためのヒントとして、腰塚勇人さんの上記「5つの誓い」を引用し講演を締めくくっていただきました。